

発達段階に応じた取組について
(過去の会議資料より)

読書能力の発達は、一般的な傾向として、5つの段階とさらに下位の段階に分けられると提唱されている。

年齢	読書能力
0	前読書期
1	
2	話し言葉で通信をしている段階。文字の存在を意識し、絵本に興味を示す
3	
4	読書入門期
	① 読みのレディネス促進期 読み聞かせをせがむ時期。「この字は何という字？」などと親に尋ね、字を覚えていく。なぞなぞなどの言葉遊びが好きになってくる。
5	② 読書開始期 かな文字が全部読めるようになる時期。1字ずつの拾い読みのため、時間がかかる。今まで読んでもらっていた本を自分で読もうとする。
6	初歩読書期
	① 独立読書開始期 意味が簡単で、未知の語があまり出てこない文章を、ひとりで読み始める。速度は遅いが、読むことは楽しいことを実感する。
7	② 読書習慣形成期 本を読む習慣が付き始める時期である。語彙の量が増え、新しいことばが出てきても、推測しながら文意をつかむことができる。文字で表された場面や情景をイメージすることができるようになってくる。
8	③ 基礎読書力熟成期 初歩の読書技術(円滑な眼球運動、正確な行がえ、1回の目の停留による把握文字数の増加等)が身につく時期である。本を終わりまで読み通すことができるようになる。また、自分の考えと比較しながら読むといった、創造的な読み方ができるようになる。
9	多読期
	① 無差別多読期 読書技術が発達して多読になり、目的に応じた読書ができるようになる時期。自発的になんでも読むようになるが、本の選択はまだ不十分である。理解と記憶がよくなり、読みの速度も大幅にアップする。参考資料や新聞をうまく利用できるようになる。
10	
11	② 選択的多読期 語彙の量が飛躍的に増加する。また、自分のニーズに合った読書材を適切に選択することができるようになる。内容を評価したり、鑑賞することができる。文章の内容によって読む速度を調整できるようになる。この段階で発達がとまる者、以後かたよった面だけが発達するものが出てくるおそれがある。
12	
13	成熟読書期
14	① 共感的読書期 読書による共感を求めて、それに適合する読書材を選択する。多読の傾向は減少し、共感したり、感動する本に出会うと、何度も読むようになる。
15	
16	
17	② 個性的読書期 読書の目的、資料の種類に応じて、適切な読書技術によって読むことができる成熟した読書人としての水準に達する時期である。学術論文なども読むことができるようになる。
18	
以降	

幼稚園：

日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、言葉に対する感覚を豊かにし、先生や友達と心を通わせる。

小1, 2(国語)：

言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

小3, 4(国語)：

言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

小5, 6(国語)：

言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

中1(国語)：

言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

中2(国語)：

言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

中3(国語)：

言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

高校・現代文A(現行)：

近代以降の様々な文章を読むことによって、我が国の言語文化に対する理解を深め、生涯にわたって読書に親しみ、国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。

高校・現代文B(現行)：

近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。

平成29年10月12日

子供の読書活動に関する有識者会議 — 資料 —

(茅野市)

～ はじめに ～

市長さんの話の中に「茅野市の子ども達は、大人の難しい話でもよく聞いてくれる。これは、保育園・幼稚園、学校の毎朝の読み聞かせの成果、読書活動の成果だと思う。」とよく話されています。確かに、人の話を聞ける子どもが増え、落ち着いてきたという印象があります。それは、これまで続けてきた絵本の読み聞かせや多様な読書活動が子ども達を育てていると感じます。即ち、一口で言えば「読書」を基盤とした教育実践と、「読書」を中核とした子育て支援を行政と市民が一体となってすすめてきた成果だと思います。

一 茅野市の教育理念(茅野市教育大綱)と読書

「21世紀を切り開く心豊かでたくましく、やさしい、夢のある人育ちの茅野市教育」



すべての教育活動の基盤に「読書・図書館教育」を据える

二 計画の基本方針

①乳児期(胎児期)から、豊かなことばと出会い、家庭での読書活動に親しみ、生涯にわたって自ら読書活動を楽しむ習慣を身につけられるように応援します。

②家庭、保育園、幼稚園、学校、地域、図書館などでの読書推進活動を、子どもの発達段階に合わせて日常的・継続的に実践することにより、子どもの読書活動の充実を図ります。

③家庭、保育園、幼稚園、学校、地域、図書館などの読書環境の整備・充実を図り、連携・協力により読書活動推進体制を整えます。

④読書活動に関する理解を深め、関心を高めるよう、子どもの読書活動の意義や大切さについての啓発と情報提供を行います。

三 子ども読書活動推進のための施策

1 子どもの発達段階別施策の推進

子どもの読書活動の効果を高めるためには、発達段階にあった読書活動を推進することが大切です。ここでは、発達段階別に各期の特徴とその時期に大切なこと及び具体的施策を示します。

なお、読書活動に対する興味や関心には個人差があるため、一人ひとりの子どもに合わせた読書推進活動に留意する必要があります。

(1) 胎児期（生まれる前）

おなかの中の赤ちゃんに、優しく肉声で語りかけたり、絵本の読み聞かせをしたりすることにより、心地よい思いや安心感を与えます。

【胎児期の特徴とこの時期に大切なこと】

おなかの中の赤ちゃんは、目・鼻・耳などの器官を完成させながら、五感や脳が発達し、おなかの中でも音を聞くようになっていわれています。

肉声で語りかけたり、一緒に音楽に親しんだりして、おなかの中の赤ちゃんに安心感を与えながら、母親が穏やかに過ごすことが大切です。

【具体的施策】

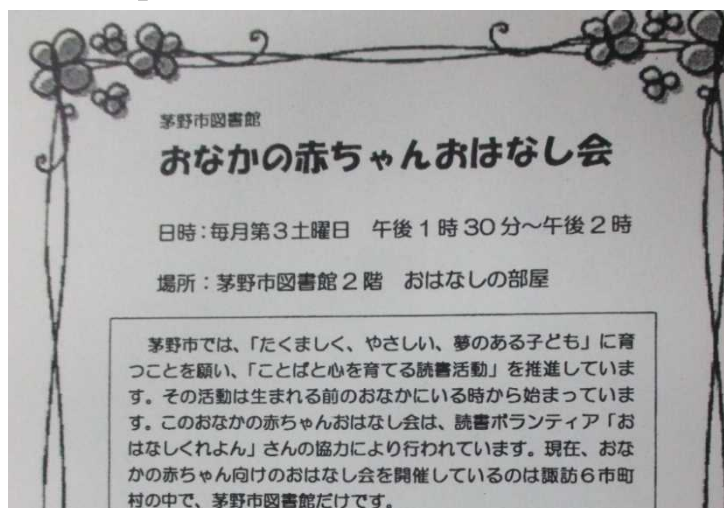
重点施策	具体的施策	担当
◎	語りかけ、子守うた、わらべうたの大切さの啓発(パパママ講座など)	図書館 保健課
◎	おなかの赤ちゃんと家族のためのおはなし会の開催	図書館 こども館(0123 広場)
	赤ちゃん絵本コーナーの設置充実(公共施設、医院など)	図書館 生涯学習課 こども館(0123 広場) 読り一む in ちの
	※ 以下 略	

【茅野市図書館 「おなかの赤ちゃんおはなし会」】

茅野市図書館では、毎月第3土曜日 午後1時30分から2時まで、読書ボランティア「おはなしくれよん」さんの協力によって、おなかの赤ちゃん向けのおはなし会を開催しています。

【おはなし会に参加した妊婦さんの感想】

「お話を聞いている間、ずっと赤ちゃんが動いていて、お話に反応して楽しんでいただけたので、家でもおなかの赤ちゃんに絵本の読み聞かせをしたい。」と感想を話してくれました。



(2) 乳児期（0歳～2歳）

肌のぬくもりを感じながら、肉声での語りかけやうた、読み聞かせなどによる絵本との出会いを楽しみ、親子の絆を深めます。

【乳児期の特徴とこの時期に大切なこと】

赤ちゃんは、周りの大人からことばをかけてもらいながら、ことばを獲得していきます。やがてことばを使って、他人とコミュニケーションを図るようになります。また、絵本の中に知っている

ものを発見して、指さしをしながら、絵本を楽しみます。

赤ちゃんへの語りかけ、子守うた、わらべうた、手遊び、絵本の読み聞かせなどを通して、声と体で触れ合いながら、親子の絆を深めることが大切です。

【具体的施策】

重点施策	具体的施策	担当
◎	ファーストブック・プレゼントの実施	読り一むin ちの 図書館 生涯学習課 市民課 保健課
◎	子育て講座・子育て学級などでの子守うた、わらべうた、手遊び、読み聞かせの大切さの啓発	こども館 (0123 広場) 家庭教育センター 保健課 図書館
	図書館、地区こども館・図書館分室の幼児絵本の充実、本の貸出しと紹介及びおはなし会の開催	図書館 地区こども館・図書館分室
	※ 以下 略	

【「読書の森 読り一むin ちの」による ファーストブックプレゼント】

茅野市では2000年（H12）に、全国に先がけて赤ちゃんに絵本を贈る「ファーストブックプレゼント」が公民協働による「読書の森 読り一むin ちの」が主体にはじめられ、現在では18,800冊プレゼントされています。茅野市では年間500人ほどの赤ちゃんが誕生しますから、赤ちゃん1人に対して二冊分の本代に活動費等を含めて毎年200万円が予算化されます。「読り一むin ちの」が中心になり「ファーストブック30冊」のリストを作りその中から、保護者が本を選び、一冊目は出生届を出しに来た市民課の窓口で渡し、二冊目は健康管理センターの四ヶ月健診の時に渡します。四ヶ月健診では、スタッフがまず読んで聞かせ、その後家の人に読んでもらいます。



《和紙を使って袋作り》



《出生届時に市民課窓口からのプレゼント》



プレゼンターによる読み聞かせの説明

「四ヶ月健診の祭、直接本を渡された時、とてもうれしく、温かさを感じていました。まだ四ヶ月の赤ちゃんですが、1ページずつ広げて見せていただいた時には、とても興味深げにじっと見ていました。私も感動しました。」とあるお母さんの感想でした。

【家庭教育センター 絵本となかよし講座】

家庭教育センターでは、毎月第1火曜日に、「ブックメイトぐりとぐら」（退職した保育園長）の皆さんによる手遊び、童謡、絵本による読み聞かせ、語りなどを行う「絵本となかよし講座」を開いています。

○さんの感想から

「はじめて参加しましたが、手遊びでは子どもが笑って楽しそうでした。また、抱っこして絵本を読んであげると指さしをするので、この子わかっているのかなと思いました。」と嬉しそうに話しました。



《母親によるファーストブックの読み聞かせ》

(3) 幼児期（2歳～6歳）

語りかけや読み聞かせなど、耳からのことばを十分に楽しみながら、ことばの力や感性を伸ばし、友だちとの遊びの中で、さまざまな体験を広げます。

【幼児期の特徴とこの時期に大切なこと】

友達と一緒に絵本の読み聞かせを聞いたり、物語や昔話を想像しながら聞いて好奇心を満たしたりしながら、お話に出てきたことを遊びに取り入れて楽しむことにより、幅広い体験ができる時期です。

大人との温かな関わりの中で、音やリズムの繰り返しやことばのおもしろさなどを感じ、夢と体験の広がる絵本の世界を繰り返し楽しむことが大切です。

そして、飛躍的に成長するこの時期の子どもは、家族や大人と一緒に絵本を楽しむことも大切です。

【具体的施策】

重点施策	具体的施策	担当
◎	「朝の絵本の時間」の継続と見学会の実施	保育園、幼稚園 読り一むinちの
◎	「家庭での読み聞かせの時間」や「家庭での読書の時間」の習慣化 主任保育士会が作成した「絵本となかよし」リストを参考に、園児への貸出	家庭 保育園、幼稚園 生涯学習課 読り一むinちの
◎	職員、読書ボランティア、保護者などによる読み聞かせやおはなし会の開催	図書館保育園、幼稚園 こども館（0123 広場） 地区こども館・図書館分室 読書ボランティア
	※以下略	

【保育園における 朝の絵本の時間】

「暮らしのなかになががあること、大人が読んでやること、子どもが本好きにするのに、これ以外の、そして、これ以上の手だてはない。」そんな思いで絵本の読み聞かせを毎日行っています。



《朝のおはなしのへや》

視察に来ました早稲田大学文学部の教授 森山卓郎先生
の感想から

絵本の時間が来ると、「おはなしジュウタン」の上に園
児が座り、先生の後ろには紺色の「おはなしカーテン」
が引かれています。まさに、「お話を聞く空間」ができ
ています。その先生は職員会議の折にも研修していると
のことで、見事な読み聞かせに、子供たちはすっかり集
中していました。日頃の取り組みを感じました。

(4) 児童前期・低学年（6歳～8歳）

聞く読書から、読む読書へと関心を広げ、自らの読書活動を楽しみます。

【児童前期の特徴とこの時期に大切なこと】

小学校に入学し、自分で学校図書館を利用できるようになります。文字で書いて表現できる力も
ついてきて、より一層本に興味・関心を持つようになる時期です。

知識を得て、想像を広げるために、日常的に読書活動を楽しむ習慣をつけることが大切です。

【具体的施策】

重点 施策	具体的施策	担当
◎	セカンドブック・プレゼントの実施	読り一む in ちの 学校 生涯学習課
◎	「朝の読書の時間」の継続と見学会の実施	学校 読り一む in ちの
◎	担任などによる継続的な本の読み聞かせ	学校
◎	家庭読書の日を設定し、家族における読書の習慣化(学 校司書会による「はじめよう本のたび」の活用等)	家庭 学校 生涯学習課 読り一む in ちの
	学習の中で「調べたりまとめたりする力」の育成(調べ 学習コンクールへの参加)	学校 図書館 こども読書活動応援センタ ー
	※ 以下略	

【小学校における セカンドブックプレゼント】

ファーストブックプレゼント活動で蒔かれた読書の種は、親子の絆を深め、絵本好きな子どもを育
ててきました。この活動をいっそう実り大きいものにするために、小学校入学時にすべての一年生に
本を贈る「セカンドブックプレゼント」事業が2005年（H17）にスタートしました。これも「読り
一む in ちの」を中心に、生涯学習課と連携して行ってきました。

手渡し会では、市長・教育長などの行政関係者、民生児童委員、地域の役員、地域のボランティア、
読り一む in ちの 等の多くの皆さんによる手渡し会を行っています。現在 6,834 冊が子どもたちに
渡っています。



《市長による読み聞かせ》



《行政、地域役員、ボランティアによる手渡し》

K 小学校に参加した手渡しの人の感想

キラキラと輝く子どもたちの姿に感動いたしました。手渡しの時に子どもたちが家庭で本を読んでもらっていると聞き、読書が定着していると感じました。親が全員そろっていて、熱心に親の読み聞かせを熱心に聞く姿に感動しました。先生が注意してもなかなか聞けない子どもが親の前では熱心に聞く姿は素晴らしかったです。この活動の旨を十分PRして、市民がさらに理解、協力していくことを期待しています。

(5) 児童後期・中高学年（8歳～12歳）

幅広い読書活動をし、最後まで読み通す力をつけ、考えを広げ深めます。

【児童後期の特徴とこの時期に大切なこと】

中学年になると、読書活動に個人差が生じ、読む本にも偏りがでてきます。

いろいろなジャンルの本に興味を持って、目的に応じた幅広い読書活動をし、最後まで読み通す力をつけることが大切です。

さらに高学年になると、ものごとに自分を重ね合わせて共感しながら読むことができるようになります。読書活動を通して自分の考えを広げたり、深めたりできるようになることが大切です。

一方、この時期の子どもは知的好奇心を抱くようになるので、教科等で図書館を活用した調べ学習を取り入れていくことも大切です。

【具体的施策】

重点施策	具体的施策	担当
◎	家庭読書の日を設定し、家族における読書の習慣化(学校司書会による「はじめよう本のたび」の活用等)	家庭 学校 生涯学習課 読み一む i n ちの
◎	「朝の読書の時間」の継続と見学会の実施	学校 読み一む i n ちの
◎	教科等による図書館を利用した「調べ学習」	学校 こども読書活動応援センター
	「読書参観日」を通して、家庭や地域への理解と啓発	学校 家庭 地域 読み一む i n ちの
	※ 以下略	

【年に1回の読書参観日】

保護者・家族や地域の方々が読書参観を参観することによって、こどもの学習活動の様子を観察し、茅野市が「読書」を大切にしていることを理解すると共に、家庭や地域での読書のあり方を考える場とする。(家庭読書、読書ボランティアへの参加等)



《お母さん聞いてよ》

お母さんの感想から

今日は親子読書でした。うちの子は「いいことがありました」という本を読んでもくれました。家では、私に読んでくれることがあまりなかったので、どうなるか心配しました。最初は、緊張気味であったが、本の中でネズミの子が何度も練習して、やっと逆上がりができるようになったところは、何か嬉しそうな表現でしたので、思わずすごいと思いました。家でも今度は私が読んであげたい・・・

(6) 思春期 (12歳～15歳)

目的をもって読書活動をし、知識を広げ、考えを深めたり、読書活動による感動を体験したりすることを通して、これからの人生をより豊かに生きるための力をつけます。

【思春期の特徴とこの時期に大切なこと】

さまざまな方向に興味分散し、流行に流されがちになる時期です。一方、自我を確立し自己の将来についても考える時期です。

希望ある人生を夢み、直接体験をしたり、読書活動での間接体験をしたりすることが大切です。

また、学習や認知的活動が旺盛になる時期であることと、教科担任制で専門的なことを学ぶことから、教科等で図書館を活用した調べ学習を取り入れていくことも大切です。

【具体的施策】

重点施策	具体的施策	担当
◎	「朝の読書の時間」の継続と見学会の実施	学校 読み一むi nちの
◎	教科等による図書館を利用した「調べ学習」 (調べ学習コンクールへの参加)	学校 図書館 こども読書活動応援センター
◎	家庭読書の日を設定し、家族における読書の習慣化 (学校司書会による「本ともだちになろう」の活用等)	学校
	※ 以下 略	

【学校図書館を活用した調べ学習】

学校図書館は、児童生徒の自発的、主体的な学習活動を支援し、教育課程の展開に寄与することを期待されている。茅野市では、各学校に教科等で利用する「学校図書館利用年間計画」を作成させて、その実践を通して次年度への修正等を行っています。

E 中学校における「総合的な学習の時間」の単元「残食について考えよう」では、図書館を活用し

て、世界の食糧問題への対策やそこに関わる人たちについて調べることを通して、地球規模に視野を広げて考える授業を展開しました。

Aさんは、栄養不足の問題が世界規模の問題であることを再確認し、その解決のために様々な活動が行われていることを図書館の資料から知り、日本から世界へと考えを広めることができました。



《図書館の本を使って調査するAさん》

(7) 青年期 (15歳～18歳)

読書活動を自分の楽しみの一つとするとともに、自分の世界を広げ、生き方を探るための読書活動を続けます。

【青年期の特徴とこの時期に大切なこと】

学びを深める時期ですが、目の前の興味あることだけに意識が偏る傾向があります。

読書活動を一つの楽しみとし、趣味を広げることが大切です。また、就職・進学という人生の岐路に立たされる時期でもあり、生き方を探るための読書活動をするのが大切です。

【具体的施策】

重点施策	具体的施策	担当
◎	読書活動をする時間と機会の確保及び読書活動の情報提供	学校 家庭
◎	読書推進活動への参加（保育園・幼稚園・小中学校での読み聞かせなど）	学校
◎	図書館・学校図書館の活用促進	学校
	担任・教科担任などの本の紹介	学校
	※ 以下 略	

2 活動の場(担当)ごとの施策の推進

子どもの読書活動を推進するにあたり、家庭、保育園、幼稚園、学校、地域、図書館などの読書活動をする場所の役割にあった活動が必要です。それぞれの活動する場所ごとの具体的施策を示すことにより、それぞれの場所でやるべき施策を確認し、推進することとします。

※ここでは、「小中学校の読書活動」「読書の森 読りーむ in ちの」「こども読書活動応援センター」について述べます。

(1) 小・中学校における読書活動

◇ 2012年(H24)に茅野市教育委員会が校長を学校図書館の館長として任命することによって、校長のリーダーシップの下、学校図書館経営方針を立案しその具現化を図っています。

学校長が学校図書館長に任命する経過は、2011年（H23）の泉野小学校読書教育公開研究会の「シンポジウム」の最後に、教育長さんが提案され、その後、教育委員会で検討され、翌年2012年に任命することになりました。この時の「シンポジスト」は、・国立教育政策研究所総括研究官 立田慶裕 ・文字・活字文化推進機構 肥田美代子 ・茅野市教育長 牛山英彦 ・泉野小学校長 宮坂のり子 ・司会者 牛山圭吾 でした。

【学校長が学校図書館長に任命するために至った主な内容】

- ・学校における読書推進するためには、「学校ぐるみ」でやらなくてはならない。
司書教諭、学校司書、担当者に任せていてはいけない、全ての先生が学校図書館に興味を持ってほしい。自分の教科の基盤は、学校図書館にあると思ってほしい。
- ・学校図書館は、学校教育における総合的な学習センターでなければならない。
- ・学校図書館は「読書によって子どもを育む」場にしてほしい。
- ・学校図書館は、教育課程と深く関連があるので、それを司るのは学校長である

① 小・中学校読書活動の実際

- 学校図書館長(校長)が学校図書館経営方針を作成し具現化。
- 図書館運営委員会、図書選定委員会の設置
- 「読書センター」「情報センター」「学習センター」をいかした読書
- 例外なく毎朝必ず行う「朝の10分間読書」(全職員が朝読書を行う)
- 保護者や地域の人に見学してもらおう「朝の読書見学会」「読書参観日」
- 月1回の「家庭読書の日」を設定
- 家庭読書を促すセカンドブックプレゼント(「読み一む in ちの」と協働)
 - ・学校図書館年間活用計画を作成し、教科の「調べ学習」の実施
 - ・同年齢、異年齢の子ども同士の読み聞かせの実施
 - ・読書ボランティアとの連携・協力と意見交換会の実施
 - ・司書教諭、学校司書研修講座(読み聞かせ、ブックトーク、情報活用能力育成)の実施
- 読書研修の充実と実際
 - 転入教職員の読書教育研修会 読書教育研究指定校による読書教育公開研究
 - 中学校区における読書教育研修会 各校による読書研修会

② 学校司書会読書活動の実際

- ◇ 毎月第1金曜日 (主に研修であるがお互いの情報交換も行う)
学校司書は全小中学校に配置(臨時職員)
 - ・TRC 図書展示会・選書勉強会
 - ・児童生徒に読んでほしい本のリスト 小学校部会「はじめよう 本のたび」
中学校部会「本とともにだちになろう」の発行
 - ・レファレンス研修と各種読書研究会、図書館教育研究会への参加
 - ・セカンドブック展示 調べ学習コンクールへの協力

(2) 地域における読書活動の実際

①読書の森 読り一む in ちの (略称: 読り一む in ちの)

2000年(H12)7月に行政とパートナーを組んで活動する公民協働の読書活動推進組織「読書の森 読り一む in ちの」が設立しました。読書活動の楽しみを活かし、子育てや、家庭、保育園、幼稚園、学校、図書館などの読書推進活動に実際に関わりながら、全ての子どもが将来にわたって豊かな読書生活ができるように応援を続けます。

[市民と行政が一体となった工夫]

- ・行政とパートナーを組んで活動する公民協働による読書推進組織をつくる。
- ・「読り一む in ちの」の活動費を補助する。(約230万円 主に絵本代 講演謝金) ファーストブック(2冊) セカンドブック(1冊)→家庭読書への種まき。
- ・事務局を生涯学習課(こども読書活動応援センターに)に置く。
- ・「読り一む in ちの」のメンバーが、他の読書ボランティアに所属している。
- ・地域の方々と一緒に行う読書。(月夜のおはなし会 地域での読み聞かせ)

- ・家庭で読書を育む「ファーストブック・プレゼント」「セカンドブック・プレゼント」の実施
- ・保育園・幼稚園の「朝の絵本の時間」や小中学校での「朝の読書の時間」の応援(見学会)
- ・読書活動に関わる講演会・講習会などの開催
- ・「読書の森」を発行し、読書活動の意義や大切さについての啓発と情報提供
- ・地域でのおはなし会(「月夜のおはなし会」「絵本を楽しむ会」「読み聞かせフェスタ」)や「民話昔ばなしツアー」などの開催
- ・赤ちゃん絵本コーナーの設置充実(公共施設、医院等)
- ・紙芝居、読み聞かせ、群読・朗読、読み合わせ、昔話や方言収集などの活動の実践

②読書ボランティアなど

2000年の「読り一む in ちの」の設立と共に、保育園・幼稚園、学校に読書ボランティアができるようになり、現在は34のボランティアが読書活動を応援しています。また、自宅を開放して家庭文庫を開設している方もいます。

これからも、主体性を大切にしながら、互いに連携し、研さんを積み、読書推進活動の大きな力になるように努めます。

- ・保育園、幼稚園、小学校、中学校などでの読み聞かせ、紙芝居、パネルシアター、おはなし会の開催
- ・読み聞かせ、紙芝居、パネルシアター、おはなし会の研修や講演会、講習会などへの参加
- ・保育士や教職員との意見交換会(交流会)への参加

(3) こども読書活動応援センターにおける読書活動の実際

2012年(H24)に、子どもの読書活動推進に関する総合的な連携推進及び連絡調整に係わる事務を携わるセンターとして設置しました。

読り一む in ちのなどと連携しながら、保育園、幼稚園、学校、家庭、地域などでの子どものための読書推進活動の応援をします。

- ・保育園・幼稚園の「朝の絵本の時間」や小中学校での「朝の読書の時間」の応援と助言(読書の質と幅を広げる)
- ・学校図書館の運営・研修に係る支援・相談(司書教諭会、学校司書会への参加)

- ・学校図書の利用の促進と「調べ学習」の研修（調べ学習コンクールの実施）
- ・「読り一む in ちの」の事務局を置き連携と調整
- ・読書活動推進関係機関、団体との連絡調整・支援体制の強化
- ・家庭や地域、地区こども館・図書館分室、市図書館との連携
- ・読書ボランティアの応援及び交流会の実施
- ・読書活動を実施している職員・教員、ボランティア等のスキルアップのための、各種講座・研修会・講演会等の実施

四 読書活動の成果・効果

- ① 子どもたちの集中力が高まった。
人の話を集中して真剣に聴く姿が多くなった。授業に集中し、話す・聴く姿勢が高まった。
- ② 読書することが好きで、不読者はいない。
全国学力・学習状況調査結果の「読書は好きですか」で、「好き」「どちらかといえば好き」を合わせて比べると、全国平均より茅野市の小学校は13%、中学校では10% 高い。
- ③ 子どもたちの表現力や発言力が高まった。
自分自身の気持ちを素直に無理なく、語彙を多くして伝えることができるようになった。
- ④ 家庭読書が比較的望ましい環境になりつつある。（1ヶ月間についてのアンケート）
家庭での読書は小学校81%、中学校68%である。（漫画、雑誌は除く）
家庭で本について話題にしているについては、小学校で51%、中学校で42%である。
- ⑤ ファーストブック、セカンドブックによって、保護者の読書意識の関心が高まってきた。
ファーストブックプレゼントでは、年々家庭の人の読み聞かせが多くなってきた。
セカンドブックプレゼントでは、9割以上の保護者等が参加するようになった。
- ⑥ 本をよく読む学校は学力が高い傾向にある。

五 子ども読書活動推進での課題と方向

- (1) 子ども読書活動推進が形骸化してきているので、「茅野市読書活動推進計画」の理念と方法と経緯を再度、確認し合っていないといけない。（推進計画の読み合わせ等）
- (2) 「読り一む in ちの」「読書ボランティアグループ」のメンバーの高齢化と新鮮さが薄れているので、若いメンバーの勧誘と組織の若返りを図る。
- (3) 発達段階における読書活動の一体化を図るために、幼保小連携と小中一貫を見据えた読書活動を行っていく。（園から中学校までの読書カリキュラムの作成）
- (4) こども読書活動応援センターが機能的に働くよう、「茅野市読書ランドデザイン」を作成し、読書でめざす姿、3ヶ年重点目標、他の機関との連携等まとめる。